

新型コロナウイルス感染症の 感染動向

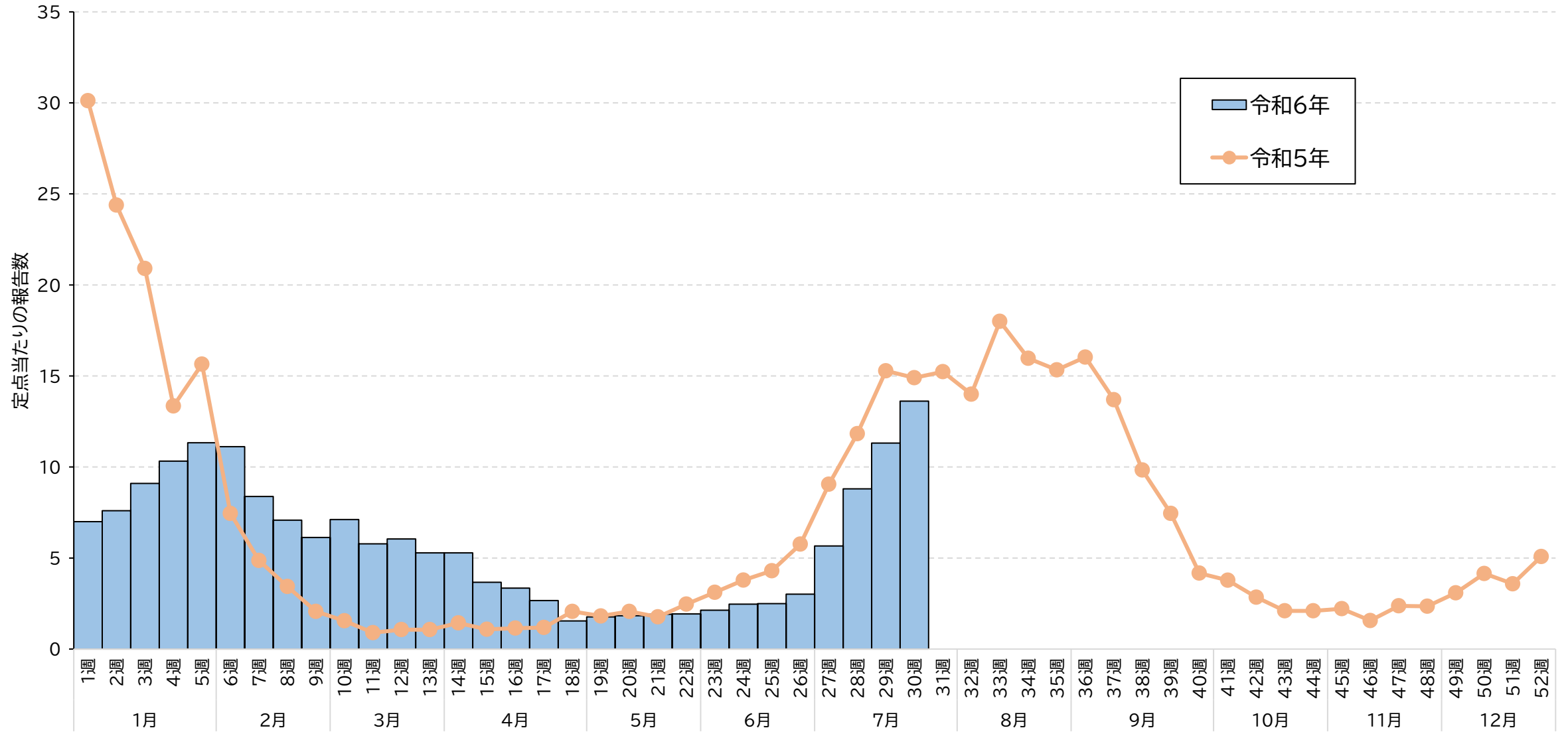
令和6年8月5日

滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課

滋賀県衛生科学センター

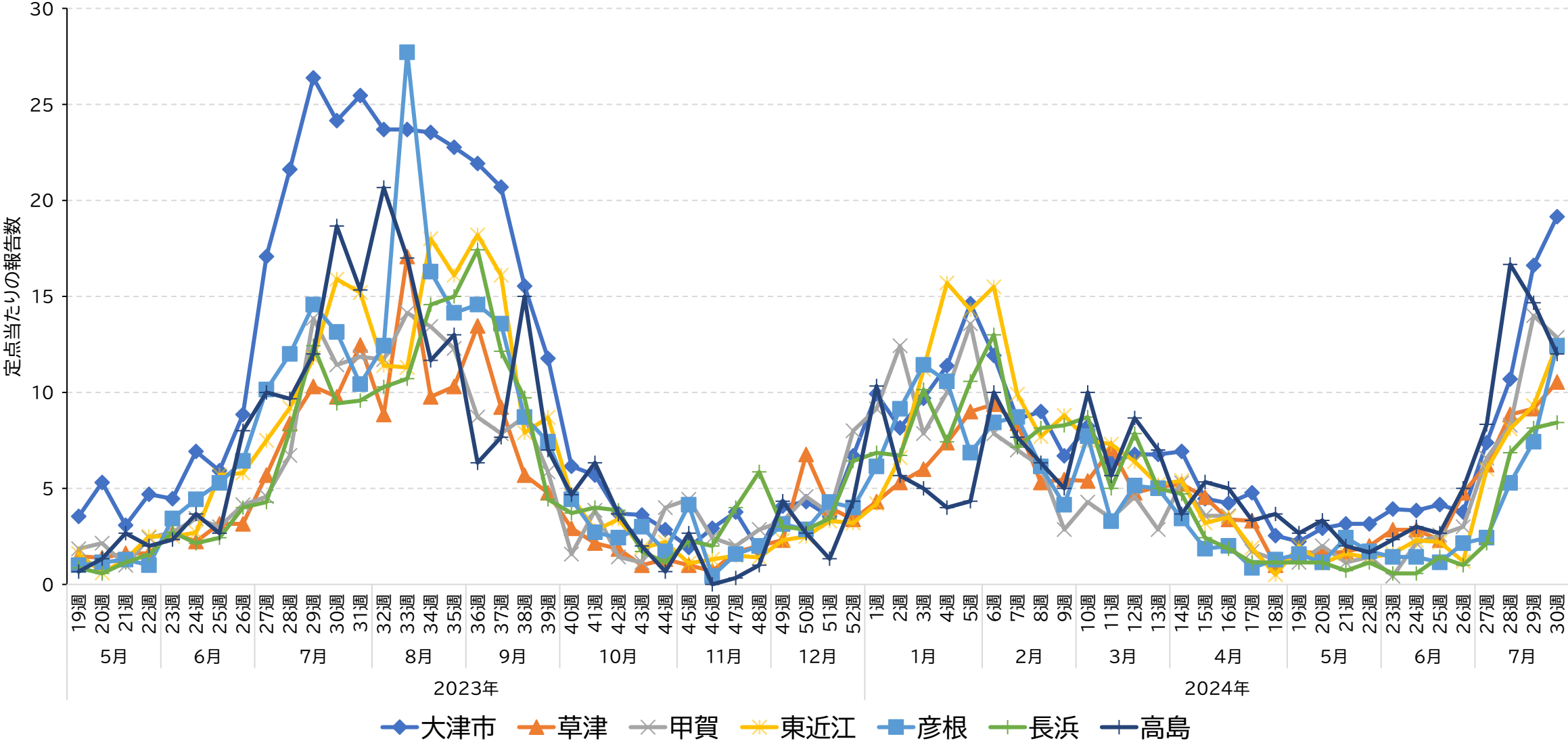
滋賀県 新型コロナウイルス感染症流行状況

R5年第1週(1/2~1/8) ~ R6年第30週(7/22~28)



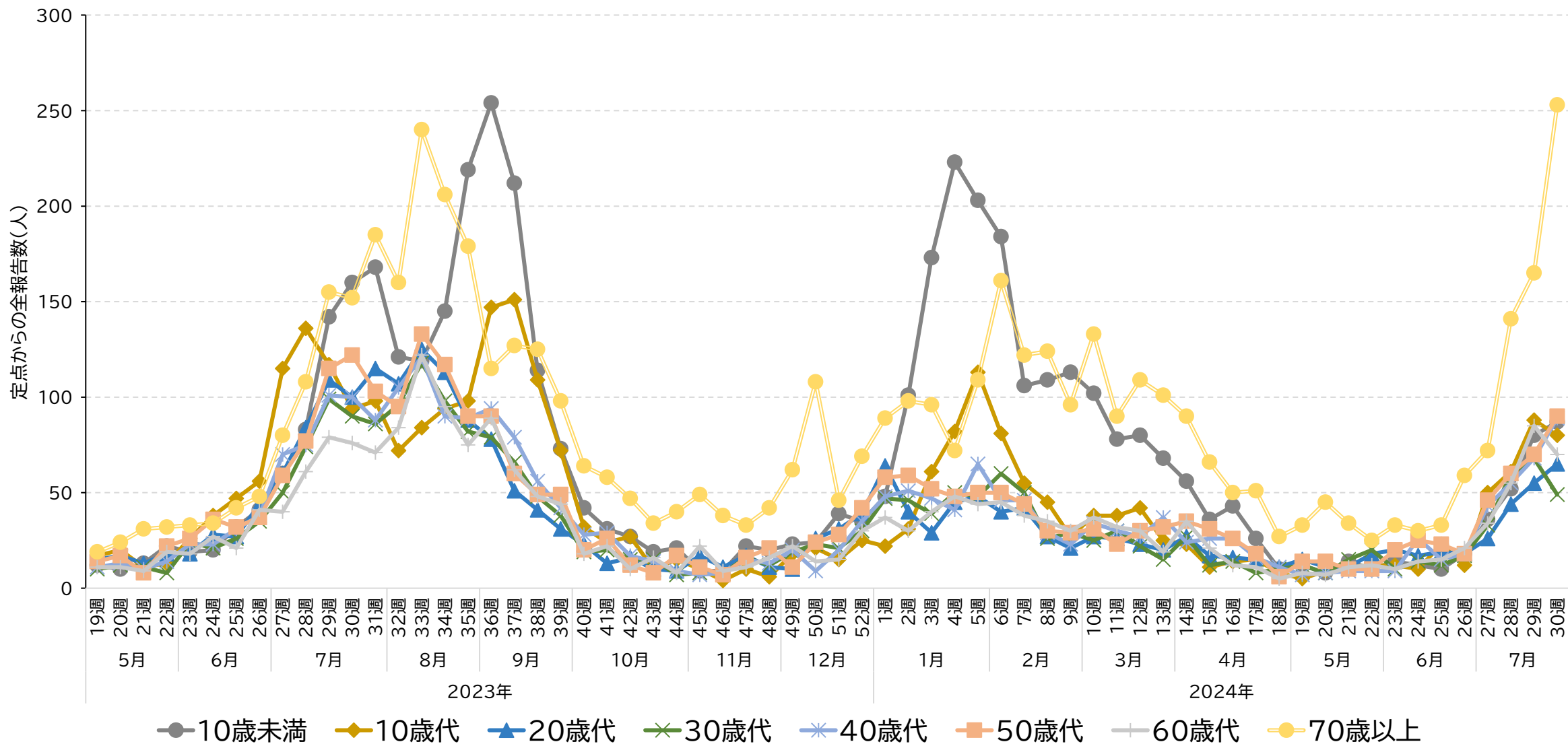
令和5年第18週以前は全数報告から定点医療機関を抜き出して計算した数値になります。

滋賀県 新型コロナウイルス感染症 保健所別推移 R5年第19週(5/8~14) ~ R6年第30週(7/22~28)

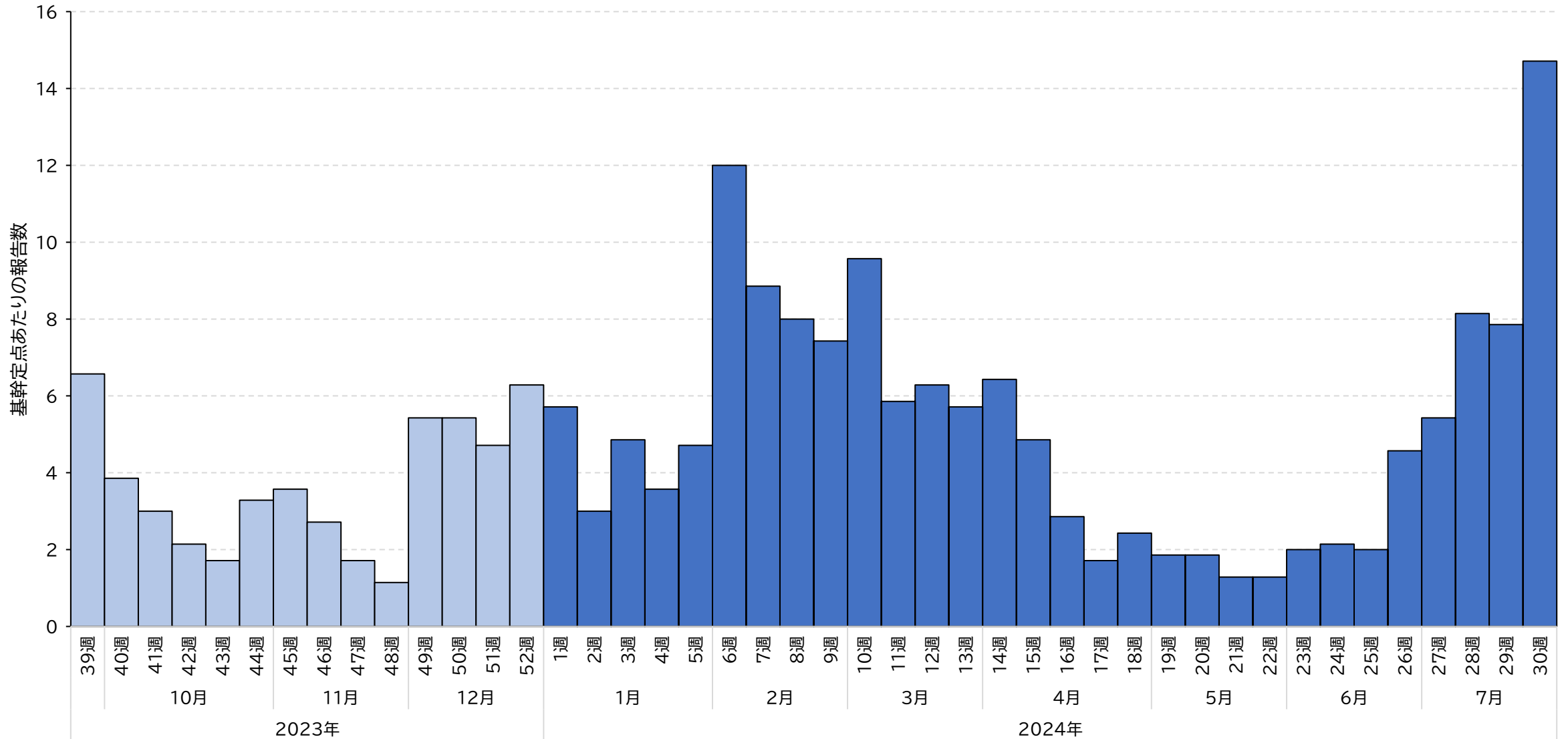


滋賀県 新型コロナウイルス感染症 年齢別推移

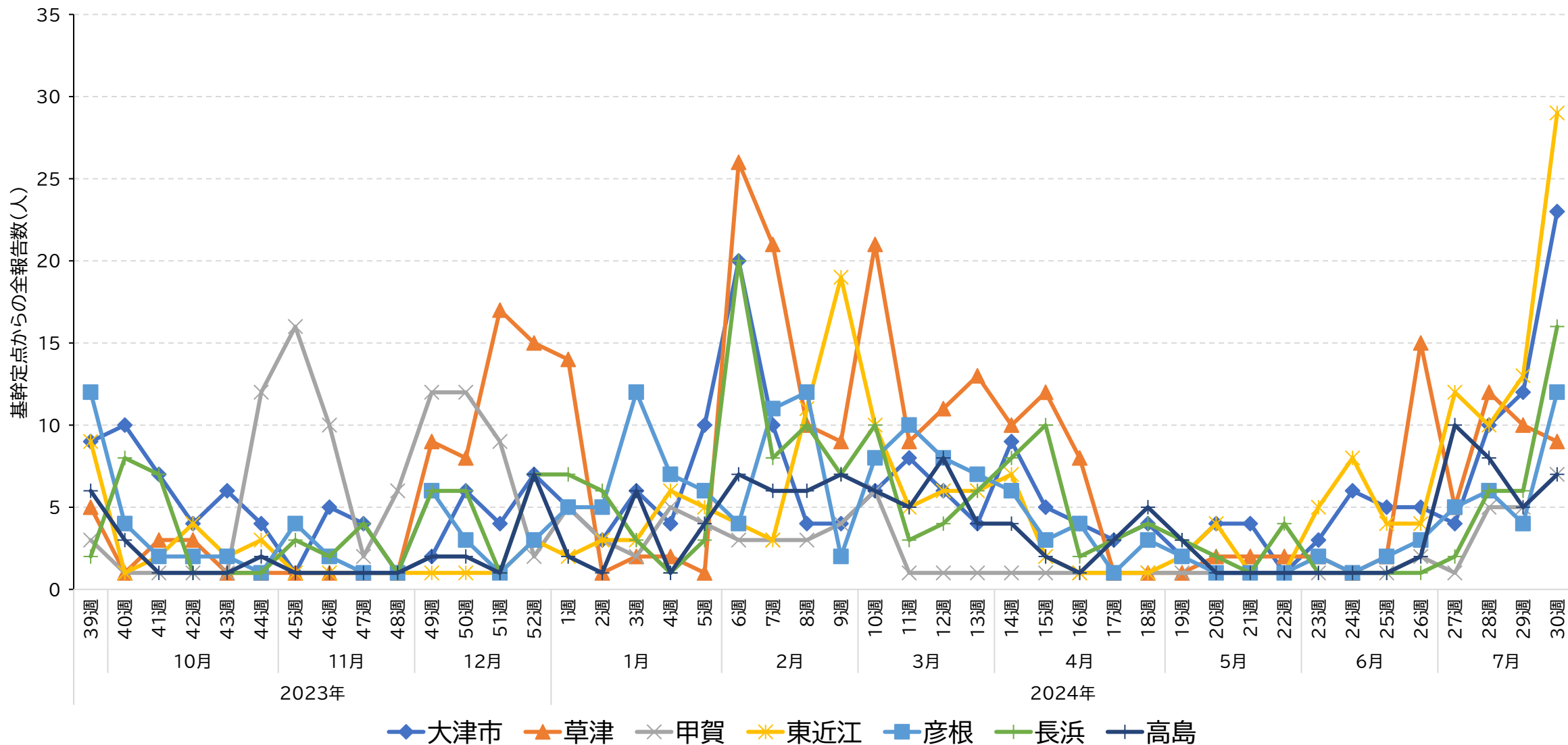
R5年第19週(5/8~14)~R6年第30週(7/22~28)



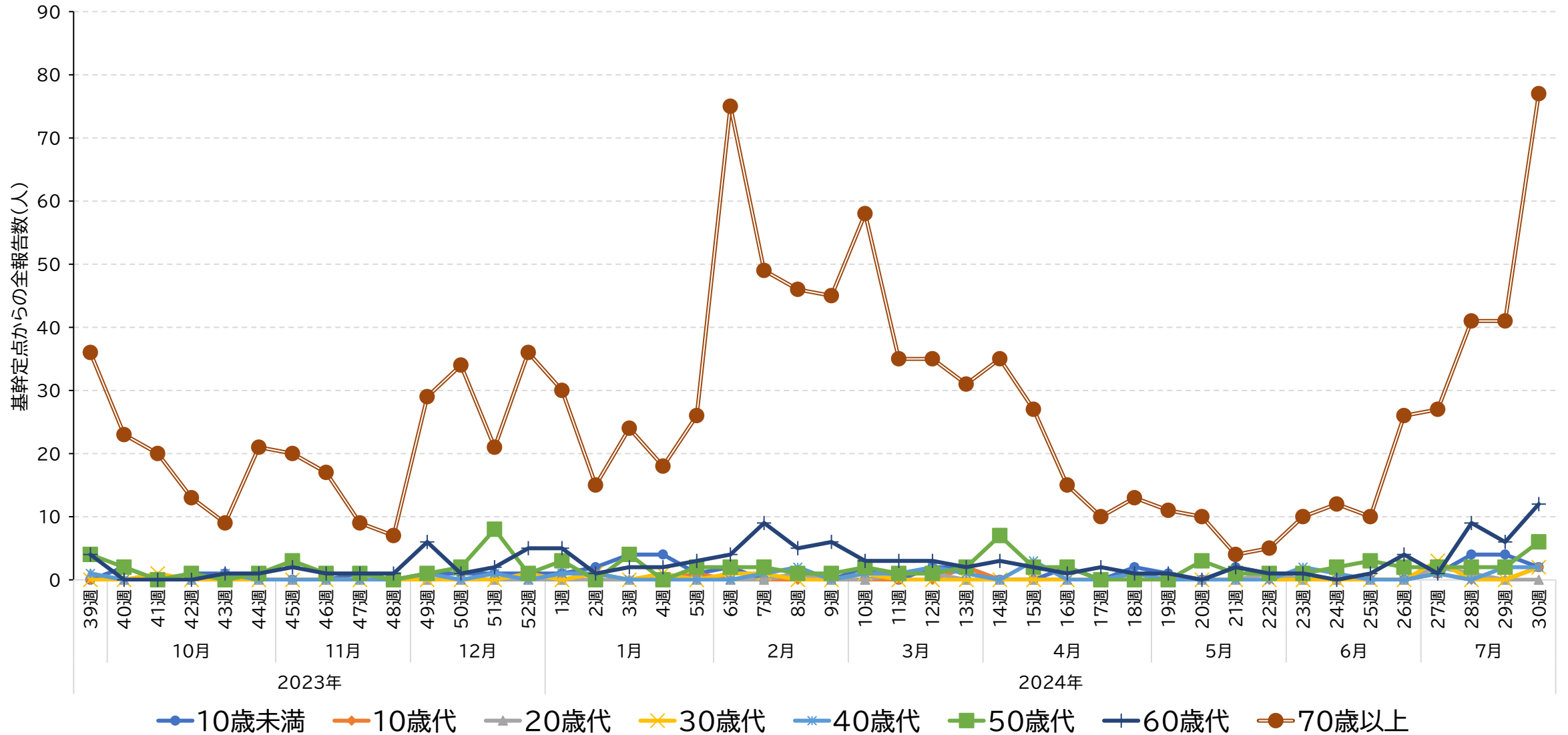
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 入院サーベイランス推移 R5年第39週(9/25~10/1) ~ R6年第30週(7/22~28)



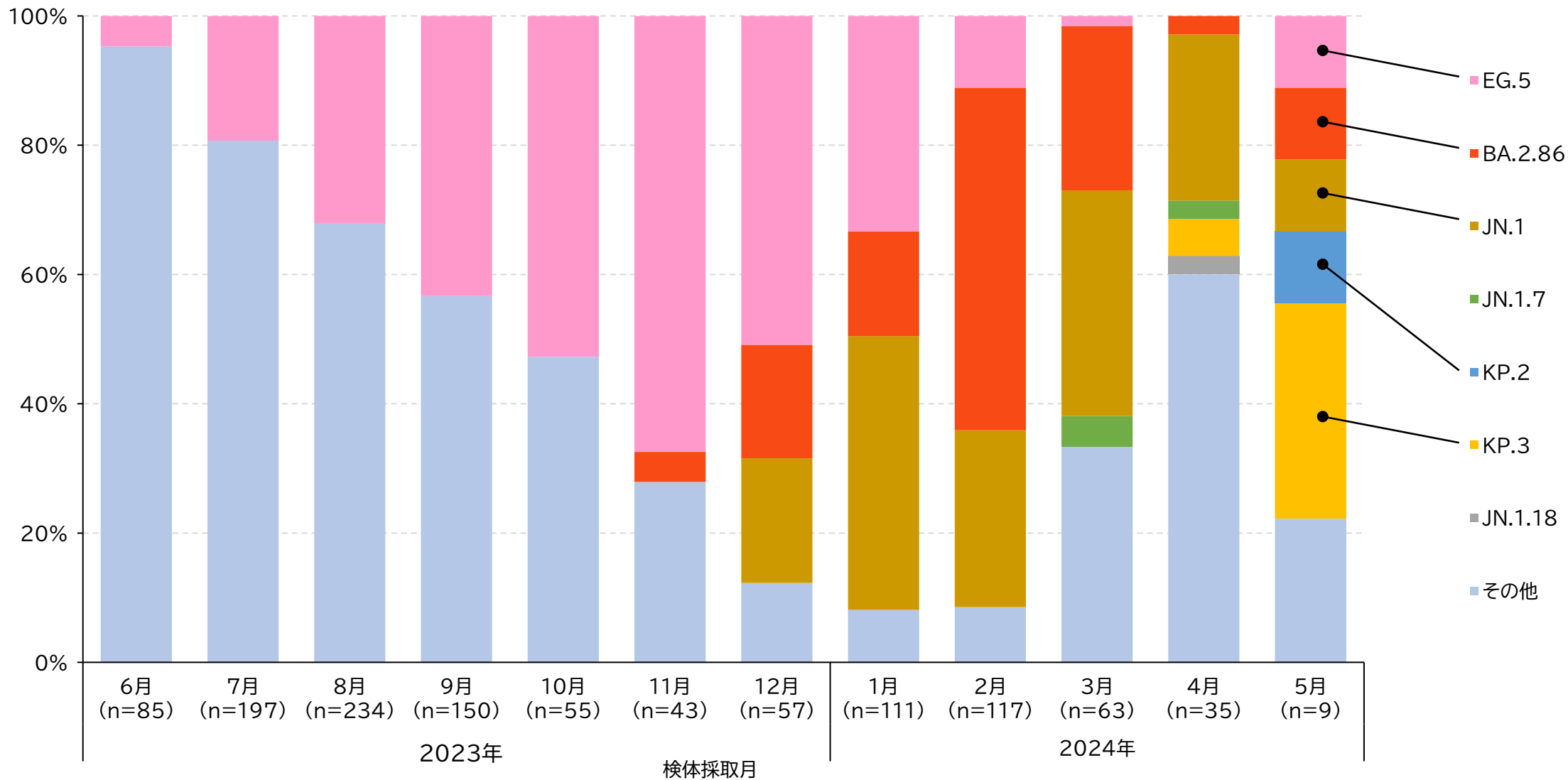
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 保健所別 入院サーバイランス推移 R5年第39週(9/25~10/1) ~ R6年第30週(7/22~28)



滋賀県 新型コロナウイルス感染症 年齢別 入院サーバイランス推移 R5年第39週(9/25~10/1) ~ R6年第30週(7/22~28)



滋賀県 新型コロナウイルス感染症 月別ゲノム解析結果 R5年6月～R6年5月

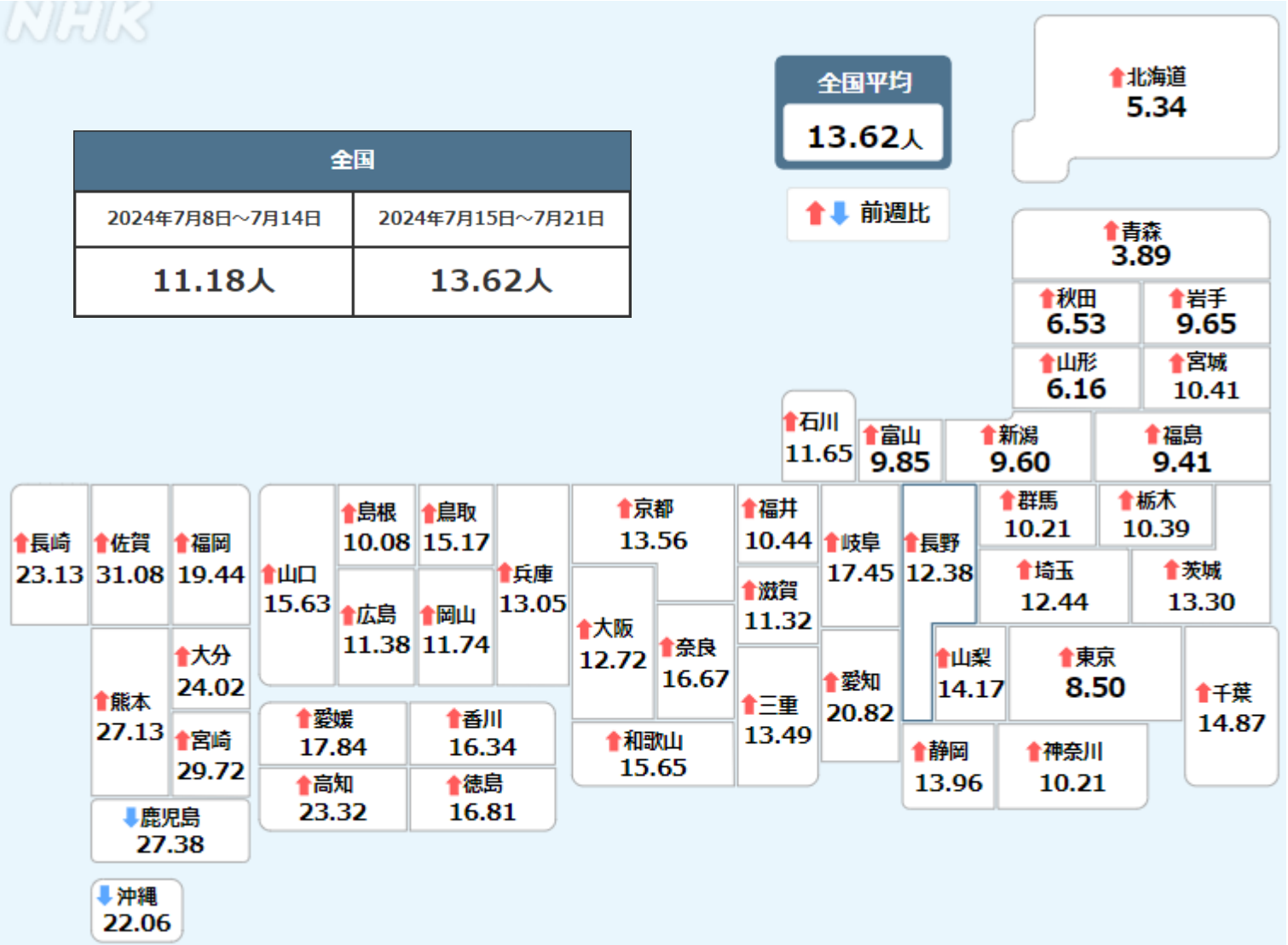


※R6年第26週時点の速報値であるため、今後値が変わります。
WHOの分類に基づき集計しています。

評価(7月22日～7月28日)

- 本県のCOVID-19患者の定点当たりの報告数は、増加傾向が見られています。全ての保健所圏域で増加傾向が見られています。全年代で増加傾向が見られており、特に70歳以上で報告が多くなっています。
- 入院患者の基幹定点当たりの報告数も増加傾向が見られています。70歳以上の報告が多くを占めています。
- 例年、夏季に患者報告数が増加しています。昨年は7月～8月にかけて、特に70歳以上の増加が多く見られました。今年も同様に患者報告数の増加傾向が続くことが懸念されます。また、高齢患者の報告数増加により、入院患者が増加することが懸念されます。

全国の流行状況(7月26日時点)



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)定点当たり報告数・年代別推移

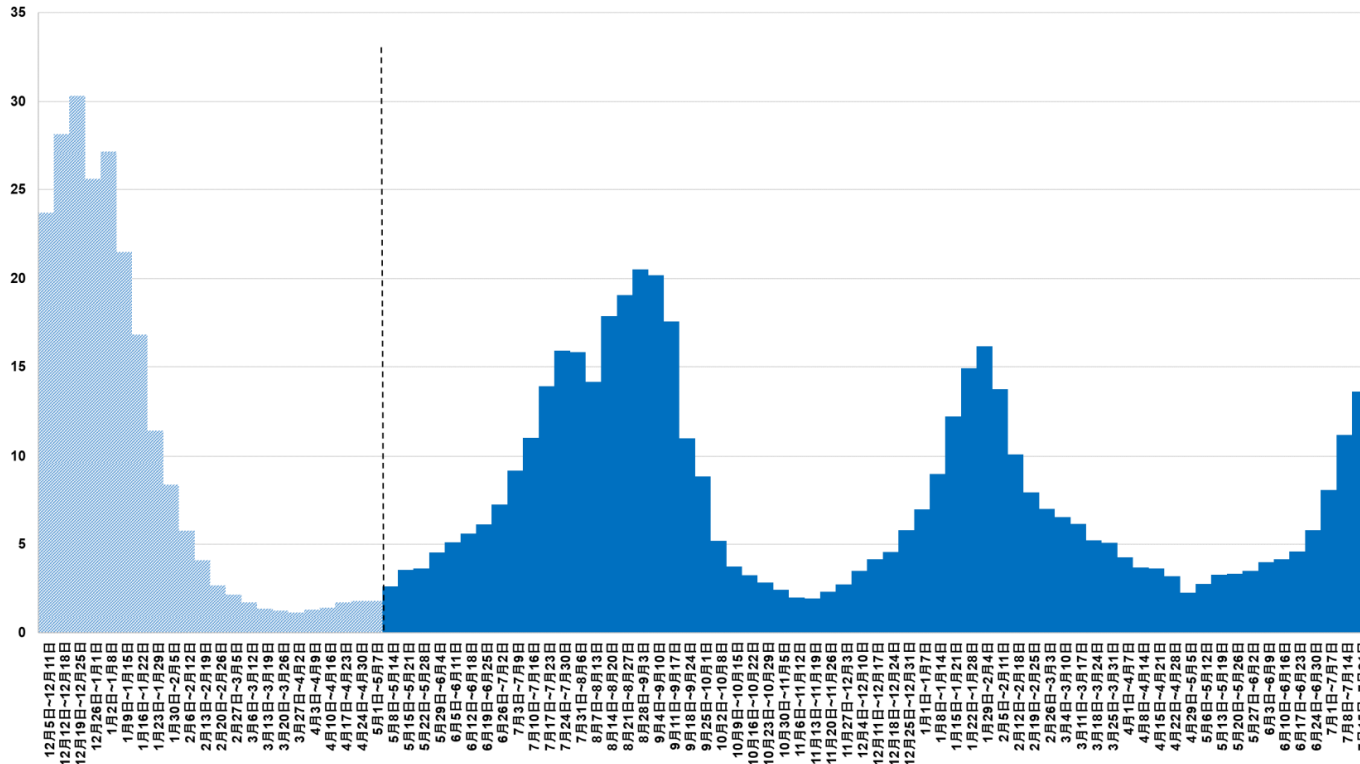
区分	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週
	6/17-6/23	6/24-6/30	7/1-7/7	7/8-7/14	7/15-7/21
10歳未満	0.47	0.66	1.02	1.48	1.75
10~14歳	0.35	0.47	0.79	1.18	1.30
15~19歳	0.38	0.45	0.60	0.91	0.98
20~29歳	0.48	0.58	0.78	0.95	1.26
30~39歳	0.46	0.57	0.77	1.03	1.28
40~49歳	0.52	0.69	0.93	1.23	1.55
50~59歳	0.60	0.71	0.99	1.33	1.61
60~69歳	0.45	0.56	0.77	1.02	1.30
70~79歳	0.46	0.57	0.75	1.09	1.37
80歳以上	0.44	0.53	0.68	0.95	1.23
総数	4.61	5.79	8.07	11.18	13.62

国内の入院・病床使用状況(7月26日時点)

入院患者の届出数 (基幹定点医療機関)

期間	(新規) 入院患者数 [人]	ICU入室 (入室時) [人]	人工呼吸器の利用 (入院時) [人]
2024/7/15~7/21	3,827	167	69

新型コロナウイルス感染症による入院患者の概況 (第29週)
新型コロナウイルス感染症入院患者数の推移

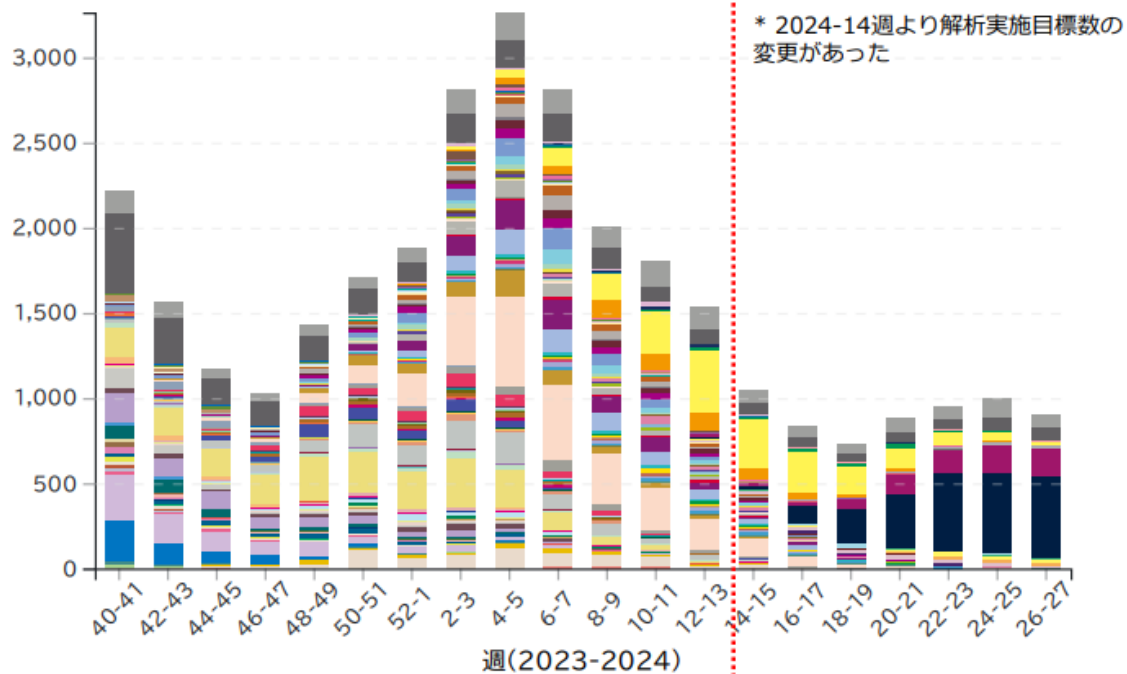


年齢	新規入院患者数 (前週)
1歳未満	105(92)
1～4歳	53(48)
5～9歳	32(21)
10～14歳	24(20)
15～19歳	18(19)
20～29歳	41(36)
30～39歳	61(44)
40～49歳	101(70)
50～59歳	196(176)
60～69歳	313(278)
70～79歳	985(766)
80歳以上	1898(1513)

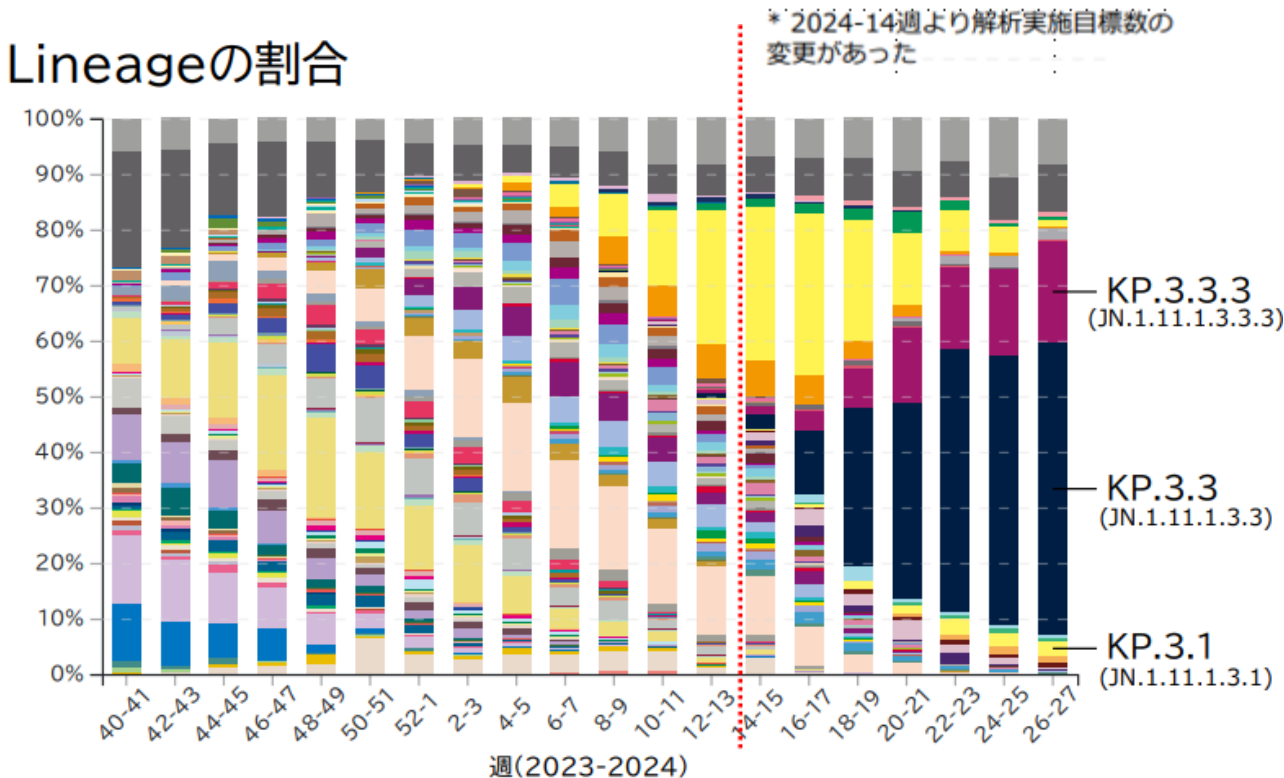
国内の流行状況 ゲノムサーベイランス

全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況 (2024年第27週時点)

Lineageの検出数(積み上げ)



Lineageの割合



- オミクロンJN.1株の子孫株であるオミクロンKP.3系統とその亜系統が増加傾向にあり国内で大多数を占める

(参考)KP.3株のウイルス学的特性

KP.3株の液性免疫からの逃避能、伝播力*1

①液性免疫からの逃避能

KP.3株は既感染、ブレイクスルー感染により誘導される中和抗体に対してJN.1株よりも抵抗性を示す

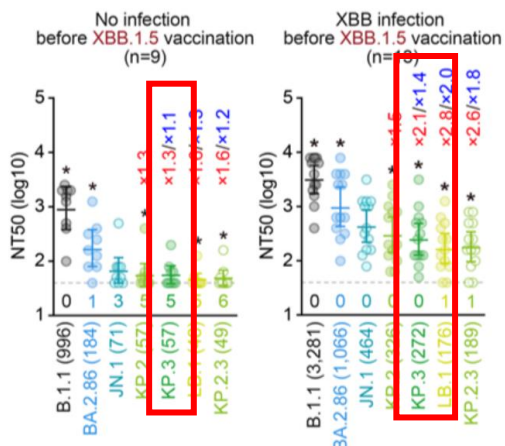


図4. オミクロンKP.3株、オミクロンLB.1株、オミクロンKP.2.3株はオミクロンXBB.1.5株対応1価ワクチンにより誘導される中和抗体に対してオミクロンJN.1株よりも抵抗性を示す

②伝播力 (ヒト集団内における実効再生産数の推定)

KP.3株は親系統株のJN.1株より伝播力が高い

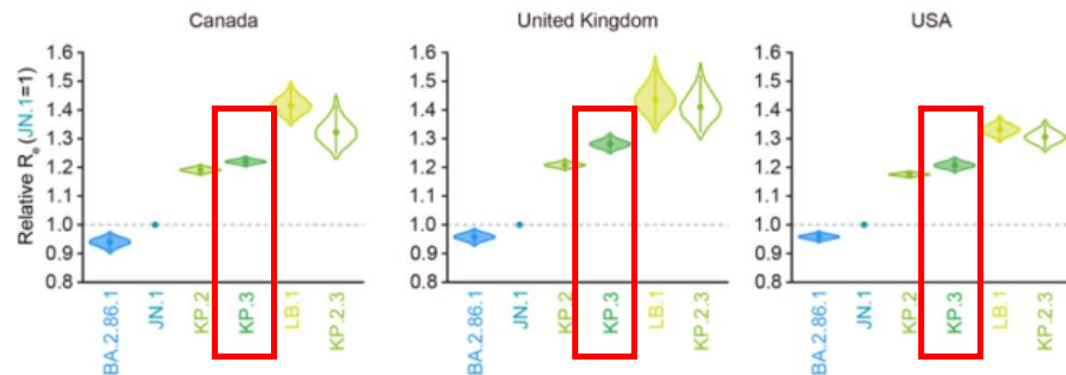


図: オミクロンKP.3株、オミクロンLB.1株、オミクロンKP.2.3株は既存の流行株よりも高い伝播力を示す

- KP.3株は、親系統株であるJN.1株と比べ、自然感染やワクチン接種による免疫の効果が低下し、効率的に感染拡大していく可能性がある。
- 一方、重症度についての違いは報告されていない。*2

*1 【東京大学HP】https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00289.htm】

*2 【英国保健安全保障庁HP: <https://ukhsa.blog.gov.uk/2024/05/13/should-we-be-worried-about-the-new-covid-19-variant-2/>】